

令和7年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

中学生の部 可児地区更生保護女性の会 会長賞

「あいさつの1つ1つが社会を明るくする」

可児市立中部中学校 3年
日比野 恵奈

私は、地域のひとりひとりのつながりの大切さを考えました。

毎朝、学校に行く途中、地域の人たちにあいさつすることを心がけています。なぜなら、このあいさつで地域のひとりひとりのつながりを大切にでき、社会を明るくする運動につながると思ったからです。

私は、不審者に遭遇したことがあります。その時は、すごく怖い思いをしました。なにもされずに相手の方は逮捕されましたが、毎日、何気に歩いていた道が突然怖くなりました。ですが、毎日相変わらずに明るくあいさつをしてくれるおばあちゃんに「おはよ。がんばってね」とあいさつをされて私も思わず明るく「おはようございます。」と返しました。その瞬間、心が軽く、暖かくなり不安から安心に変わったのを覚えています。

あいさつとは、たった一言でも、人の心をあたたかくする力を持っています。たとえ知らない人同士でもあいさつをするだけで相手との距離が縮まります。誰かとつながるのに難しい言葉や立派な行動はいらないのです。むしろ、何気ないあいさつこそが、信頼などを育てる第一歩なのです。

また、地域には高齢者や小さい子どもなどさまざまな人が暮らしています。あいさつを通して見守り合える関係があると、安心して暮らせる地域になります。たとえば、いつも通る道で誰かと顔を合わせ、「こんにちは」と言葉を交わす。それだけでも、「この地域には見ていている人がいる」という安心感につながります。あいさつは、一瞬の出来事ですが、その一瞬が人の心に残ります。あいさつを交わすことで、お互いに顔と名前を覚えるようになり、困っているときには自然と声をかけ合えるような関係が生まれます。地域の中で助け合うきっかけにもなります。私自身、あいさつを通して多くの人と心を通わせることができました。これからも、小さな一歩を大切に、地域のつながりを育んでいきたいです。

このようにあいさつは、社会を明るくする運動につながると思っています。

最近は、インターネットやスマートフォンが普及し、直接顔を合わせて話す機会が減っているように感じます。

だからこそ、今の時代、よりあいさつが大切だと思います。どんなに機械が発達していても人と人とのつながりは、言葉から始まります。その一番の入り口があいさつです。明るく元気に交わすあいさつは、機械にはできない、ない「ぬくもり」があります。

私は、これからも地域の中で、あいさつを大切にしていきたいと思います。毎日の生活の中で誰かとすれ違うだけでその人と少しだけ心がつながります。そして、その小さなつながりがやがて地域全体を明るく、あたたかくする力になると信じています。

これからも、笑顔とともに、あいさつでつながる小さなつながりをたくさん増やしていきたいです。